

流通チャネル分析にもとづく物流施設の役割と交通ネットワークの将来変化の研究

主査 岩尾詠一郎(専修大学准教授)

近年の国際化・情報化の進展により、商取引方法だけでなく商品や物資の輸送方法も変化してきている。商取引方法や商品や物資の輸送方法が変化すると、商取引や商品や物資の経路である流通チャネルの構造もそれに応じて変化する。そして流通チャネルの構造が変化すれば、商品や物資が発着する物流施設の立地場所が変化するため、物流施設を結ぶ交通ネットワークもそれに併せて整備していかなければならなくなる。

そこで、本研究は、流通チャネル分析を通じて、物流施設の立地場所と交通ネットワークの変化を明らかにし、今後、流通チャネルの構造が変化した場合の、物流施設の立地場所と、物流施設間を繋ぐ交通ネットワークの整備のあり方、および効率的な物流システムのあり方を明らかにすることを目的としている。

具体的には、流通チャネル分析の枠組みを整理し、次に、事例をもとに流通チャネル構造の変化を示すとともに、流通チャネル構造の変化と輸送方法、および商取引方法の変化との相互関係を示す。そして、輸送方法の変化が、物流拠点整備と交通ネットワークの整備に与えた影響と、商取引方法の変化が、物流拠点整備と交通ネットワークの整備に与えた影響を示していく。これらが明らかになることで、今後、輸送方法や商取引方法が変化した場合の、物流拠点整備のあり方と交通ネットワーク整備のあり方が明らかとなる。

このうち、上半期は、①流通チャネル分析の枠組みを整理するとともに、②事例として、家電品を取り上げ、家電品の流通チャネル構造の変化を示した。

下半期は、事例として、生鮮食料品、医薬品、食料品を取り上げ、それぞれの品目ごとに流通チャネル分析をおこなった。その結果、品目の違いによる①商取引経路と物流経路の違いを明らかにするとともに、②経由する物流施設の役割の違いを明らかにした。